

令和6年度 阿波市総合教育会議 会議録

(1) 会議 開催日

令和7年1月16日（木）

阿波市役所 2階 災害対策本部室

午後2時00分から午後3時5分まで

(2) 出席委員の氏名

市 長	町田 寿人
教 育 長（委員）	高田 稔
職 務 代 理	重清 由充
委 員	森本 匡史
委 員	細川 敬雄
委 員	曾川 京子

(3) 委員を除く、議場に出席した人の氏名

阿波市議会副議長	武澤 豪
阿波市議会 文教厚生常任委員会	
委員長	吉田 稔
副市長	安丸 学
政策監	正木 孝一
教育部長	小松 隆
教育部次長	三宅 剛
教育部次長	酒巻 達也
学校教育課長	山田 繁美
社会教育課長	藤原 洋文
学校給食センター所長	井内 徹
企画総務部次長	大倉 洋二
企画総務課課長補佐	石川 学

(4) 傍聴人

0名

(5) 欠席委員の氏名

委 員	森 文彦
-----	------

大倉次長	皆さんお揃いですので、ただ今から「令和６年度 阿波市総合教育会議」を始めさせていただきます。本日司会進行をさせていただきます企画総務課 大倉でございます。どうぞ、よろしくお願いいたします。 本日の出席者につきましては、別紙２の席次表のとおりとさせていただきますが、急遽、教育委員の森様が欠席となっております。なお、お一人お一人の紹介につきましては、省略させていただきます。 それでは初めに、町田市長よりごあいさつを申し上げます。
町田市長	皆さん、こんにちは。阿波市長の町田寿人でございます。「令和６年度阿波市総合教育会議」の開催にあたり、一言ご挨拶申し上げます。 本日、令和６年度「阿波市総合教育会議」を開催しましたところ、阿波市議会より、武澤副議長、吉田文教厚生常任委員会委員長には、年明けのお忙しい中、ご臨席を賜りまして、誠にありがとうございます。 また、日ごろは教育委員の皆様方には、本市行政全般、とりわけ、教育行政の推進に、格別のご理解・ご協力を賜っておりますことに、心から厚くお礼を申し上げます。 さて、本市では、「子育てするなら阿波市」をキャッチフレーズに、「切れ目のない子育て支援」に全力で取り組んでおります。 副市長を６年経て、昨年４月２４日に市長に就任して以来、いろんな教育に関するグローバルな情報を注意深く聞いてきました。最近、特に気になったのは、NHKのニュースです。経済協力開発機構（OECD）は、先進国のヨーロッパ諸国を中心に、３６カ国の加盟国で構成されていますが、その中で、日本の子育て支援に関する公的支出支援は８％で、加盟国の中で下から３番目という低い水準であり、平均は１２％なので日本は公的支出がすごく低いということ。これに加えて、高等教育にかかる費用についても、家庭から支出している割合が５割を超え５１％。これも他の国に比べて非常に高く、平均より３０ポイント高くなっています。支出についての法的支援が非常に少ない。事務局のまとめとしては、日本は高齢化の進行によって、社会保障費に国家予算を投入しながら、将来を担う子ども達に対する予算配分が少ないのではないかということが、最近NHKで報道されておりました。 それを受けまして、私も同感でございまして、教育委員さん、武澤副議長、吉田議員も来てくれておりますが、予算を執行するには、二元代表制でございますので、市議会の議決をいただき、協力を得まして、通学用かばんの購入事業、来年、令和８年度からになるんですけど、来月ぐらいから見本の品物を見ていただき、１年前から揃えていただく、そ

	んなことにも取り組んでいこうと思っております。 こういった中で、総合教育会議は、平成２７年４月に地方教育行政の組織及び運営に関する法律が変わりまして、特に市長部局と教育委員会の連携のもとに行う非常に重要な会議と心得ております。 今日の議題におきましても、「阿波市における特色ある食育の取組について」と、「休業日の時間の見直しについて」、この後、説明させていただきますが、委員さんには忌憚のないご意見をいただきまして、有意義な会にしたいと思っておりますので、ぜひご協力をよろしくお願い致します。 そして結びになりましたが、皆さんのご協力をもちまして、阿波市の教育に対する、日本の中でも、四国の中でも、県内でも誇れる阿波市の、教育行政を推進していきたいと、微力ではありますが、思っておりますので、今日はどうかよろしくお願い致します。
大倉次長	続きまして、高田教育長よりごあいさつを申し上げます。
高田教育長	失礼します。私からも一言ご挨拶申し上げます。 本日は、武澤副議長様、吉田文教厚生常任委員長様のご出席をいただきまして、阿波市総合教育会議が開催されますことを、本当にうれしく思っております。ありがとうございます。 最初に、この場をお借りいたしまして、今年度の教育環境整備の概要についてご報告させていただきます。請負金額等の大きいものを、主に報告させていただきます。 学校教育関係では、阿波中学校屋外運動場夜間照明及び防球ネット改修整備事業、御所小学校多目的トイレ増築工事を行いました。 また、現在、土成小学校北校舎屋外防水改修工事、伊沢小学校プール改修工事を行っております。 社会教育関係では、土成歴史資料館改修工事を行っておりますが、今年度末には終了する予定となっております。 その他、先ほど市長さんからのお話にもありましたように、小学校入学予定のご家庭には、今年度は間に合わないということで、通学用カバン補助としてひとり２万円の補助を支給しているところでございます。 市長さん並びに議会の皆様方には、常に、子どもたちの教育環境整備や教育支援に、ご理解・ご支援をいただき、心から感謝申し上げます。ありがとうございます。 さて、本市の教育行政は、市の最上位計画であります第２次阿波市総合計画をはじめ、教育大綱、教育振興計画に基づき進められております。

	そして、この総合教育会議は、市長と教育委員会が、十分な意思疎通を図り、より一層、民意を反映した教育行政を推進するために行う会議となっております。 「子育てするなら阿波市」「子育て応援のまちづくり」のさらなる実現に向け、これまでの取組への成果や課題に評価を加えながら、今後の教育行政を進めまいりたいと考えています。 本日も、どうか忌憚のないご意見をいただきますようお願いいたします。
大倉次長	それでは、議題に入りたいと思います。議事の進行は主催者であります町田市長にお願いしたいと思います。 町田市長、よろしくお願いいたします。
町田市長	次第に従いまして、議事を進めてまいりたいを思います。皆さん、ご協力の程よろしくお願いいたします。まず、議題１、「阿波市における特色ある食育の取組について」、事務局から説明をお願いします。
井内学校給食センター所長	学校給食センターの井内です。阿波市における特色ある食育の取組について発表させていただきます。よろしくお願いいたします。 本日はこのような流れで話をさせていただきます。 １．はじめに、 学校給食センターは、調理と配送業務を民間委託し、平成２６年９月から学校給食の提供を開始しました。現在約２，５００食を調理、配送しています。 給食形態は完全給食で、米飯給食は週３．５回、パン給食は週１．５回提供していましたが、１１月以降はパン業者の都合により、米飯給食が週４回、パン給食が週１回となっております。 給食費は令和６年度から、１食あたり、小学校３１５円、中学校３４３円に改定しましたが、給食費の値上がり分を市が補助し、保護者負担は据え置いています。 地域で生産された物をその地域で消費することを地産地消と言いますが、阿波市で生産された農産物を阿波市に住む私たちが消費する「Ａｗａ産Ｏｕｒ消」を推進しています。 「Ａｗａ産Ｏｕｒ消」を推進するために、阿波市学校給食地産地消推進計画を策定し、地元で採れた安心・安全で新鮮な農産物を大量に、しかも安定的に供給できる体制を構築しています。

	J Aや阿波市関係各課で構成する「阿波市学校給食農産物供給協議会」を開催し、毎月話し合いの場を設け、献立作成や計画栽培を行っています。令和5年度の青果物の地産地消率は67.7%でした。 2. 阿波市の食育推進体制について 阿波市では生活習慣病の増加が健康課題となっていることから、「いきいき健康阿波21」を策定しています。その中に第2次阿波市食育推進計画も含まれています。 第2次阿波市食育推進計画では、 (1) 健康寿命の延伸につながる健全な食生活の実践、食を通して心身ともに健康に過ごそう (2) 地域における食文化の継承や農林水産業への理解促進、ふるさとの味を受け継ごう (3) 食の選択力の向上及び安全性の確保、よりよい「食」を選ぶ力を身につけよう を目標として、各認定こども園、各小中学校で、食育に関する様々な取組を行っています。 各認定こども園、各小中学校の食育に関する取組は、教育委員会、健康推進課、校長会会長、各認定こども園の代表、各小中学校の食育リーダー、阿波市PTA連合会会長、栄養教諭等で構成する阿波市学校食育推進委員会で発表、協議を行ない、連携を図っています。 ここからは、学校給食センターの具体的な取組についてお話します。 第2次阿波市食育推進計画の目標に沿ってご紹介します。 (1) 食を通して心身ともに健康に過ごそう 徳島県学校食育推進パワーアップ作戦の授業の内容は、このようになっています。 学校給食センターに勤務する県の栄養教諭が学年ごとのテーマに沿った授業を行っています。 食育担当者および、担任教諭と事前に打ち合わせを行い、学級の実態に合った授業内容になるように心がけています。どの学年も学校給食と関連させた内容とし、給食を生きた教材として生かせるようにしています。 (2) ふるさとの味を受け継ごう 「Awa産Our消Myメニューコンクール」は、夏休み期間に市内の児童・生徒から阿波市産農産物を利用した給食献立を募集し、優秀作品については実際の給食として提供するなど、学校給食を活用した食育を推進することを目的として実施しています。
--	---

	こちらは令和5年度の「A w a 産O u r 消M y メニューコンクール」入賞メニューです。令和5年度は554点、今年度は676点もの応募がありました。入賞は金・銀・銅賞の他に、阿波市のいいもの賞、入選11点の合計15点あります。 毎年、入賞作品の一部は、アエルワ食堂でも8月に提供していただき、保護者や市民の方が、実際に食べることができます。金・銀・銅賞のメニューは、今年も、給食で提供しました。また、今年度第9回「A w a 産O u r 消M y メニューコンクール」の入賞メニューも給食で提供できるよう計画中です。 ①給食献立年間計画について 学校給食センターでは、複数の栄養教諭が献立を立てているので、同じメニューを重複せず、阿波市産農産物を活用するために、給食献立の年間計画を立てています。「A w a 産O u r 消M y メニューコンクール」入賞作品や徳島県や他県の郷土料理など、どの食材をどの月に提供するのが分かるようにしています。 こちらは、阿波市産の野菜や果物を使用した給食献立です。果物は数の確保や調理工程が難しくならないよう、フルーツポンチなどに入れて提供しています。 阿波市には水耕栽培のレタスがあり、消毒洗浄を丁寧に行い、生のままの提供することが可能となりました。この日は、沖縄県のご当地給食をテーマとし、タコライスで使用しました。 また、「A w a 産O u r 消M y メニューコンクール」入賞作品の鶏肉のラタトゥイユソースがけに阿波市産野菜をふんだんに使用し、デザートブルーベリーはAWAベリーファームさんに大きなブルーベリーを用意していただきました。初めてブルーベリーを食べる児童もいて、地域の農産物に関心を持つよい機会となっています。 こちらは、徳島県の郷土料理、かきまぜ、けんちゃん煮、いとこ煮、ならえです。紹介した献立以外にも、おでんぶやふしめん汁など季節や行事に合わせて提供しています。 徳島県以外の郷土料理やご当地料理も提供しています。②のチャンプルーは「A w a 産O u r 消M y メニューコンクール」入賞作品にもなっており、阿波市産野菜を使ったあわみチャンプルーとして提供しました。 給食で提供する際、必ず放送資料でその日の目的や料理について知らせ、毎日、「A w a 産O u r 消」の農産物も合わせて紹介しています。学校給食において、郷土料理や行事食を取り入れ、その意義や由来など
--	--

	について情報提供を行うことで、地域の食文化への興味関心など意識の向上に努めています。 (3) よりよい「食」を選ぶ力を身につけよう ①親子でチャレンジ！あわ味キッチンについて 夏休み前の土曜日、市内の小学生とその保護者を対象に、家族で料理により親しみ、自ら調理してみようと意欲づけにつながる機会とすることを目的として、阿波市産の野菜や果物を使った親子料理教室を開催しています。今年度は、「おうちの方と一緒に、旬の野菜を使った料理や郷土料理を作ろう」をテーマにカップ寿司、夏野菜たっぷりカレースープ、阿波ういろを作りました。 参加者は児童13名、保護者11名の11組が参加しました。調理体験の少ない児童も保護者と協力して、楽しそうに調理しました。「家庭ではなかなか一緒にゆっくり料理することがなかったので、とても良い機会となりました。」という保護者の意見が多く、楽しい時間を親子で過ごせました。 「家でもまた作ってみたい。」という児童の料理への興味関心を高める機会となりました。今後も、親子が楽しむ料理教室を継続していきたいと考えております。 ②親子給食センター探検隊 夏休みに入ってすぐの土曜日、市内の小学生とその保護者を対象に、普段は入ることのできない学校給食センターの中を探検し、学校給食及び食育への関心・理解を高めることを目的として、親子給食センター探検隊を実施しています。 毎年、応募数が多い、人気の企画です。午前の部と午後の部の二部制にし、なす班とトマト班に分かれて、スタンプラリーをしながら給食センター内を探検します。 身支度を整え、実際に学校給食センターの調理員が行っている手洗い方法で手を洗い調理場内に入っていきます。体験ができるチェックポイントで調理員がおり、機械の説明や作業の仕方など、普段、どのように給食を作っているのか、わかりやすく説明しました。 カラーボールを食材に見立てて、三槽シンクで洗ったり、調理釜で混ぜてみたり、児童も保護者も、体験をし、給食調理の大変さを実感していました。 児童からは「体験コーナーをして、給食センターの人が、どんなことをしているのかを知った。大変なことも知った。」「夏休みにすごく貴重な体験ができて、うれしかった。床の色が違うのがすごかったです。」
--	---

	保護者の方からは「今回の経験でより感謝の気持ちを持って給食をいただけたと思います。」「調理場が想像以上に美しく驚きました。」「わかりやすく説明してくださり、よかった。地産地消で、健康志向で、子どもの成長が楽しみ。」などの感想をいただき、学校給食について知ってもらうよい啓発になりました。 給食センターの様々な取組は、徳島新聞や阿波市のライン、広報あわなどで情報発信をしています。また、毎日の給食写真は、1週間ごとにまとめ、学校給食センターホームページに掲載し、保護者や地域の方への食の関心を高める啓発となるよう行っています。 4. 成果と課題 学校給食センターでは、保護者の意見を把握し、今後の学校給食運営の参考とするため、学校給食に関するアンケート調査を実施し、948人の保護者から回答をいただきました。 「学校給食について、どのように感じていますか」と尋ねた質問では、47%の方が満足、45%の方がどちらかといえば満足と、学校給食センターとしては非常にうれしい結果となりました。 満足している点としては、栄養バランスが一番多く662人76%、次に献立の内容507人58%、おいしさ431人50%となりました。 満足していない点は、献立の内容が一番多く35人44%、次に量32人40%、おいしさ30人38%となりました。 学校給食の食材についての希望では、今までどおり阿波市産の新鮮な野菜を使ってほしいが圧倒的に多く767人81%となり、保護者の多くが、現在の地産地消を継続してほしいと思っていることが分かりました。また、無農薬、減農薬のお米、野菜を使ってほしいと思っている保護者が一定数いることも分かりました。 学校給食を通じてお子さんに学んでほしいことについては、多くの保護者が、食に関する感謝の気持ちや食事の大切さ、食事の内容や栄養バランスなどを、学んでほしいと思っていることが分かりました。 パンとご飯の回数については、今のままでよいが一番多く570人60%、ご飯の回数を増やしてほしいが332人35%、パンの回数を増やしてほしいが46人5%という結果になりました。 給食の質と給食費については、質を維持して給食費も維持してほしいと考えている方が659人70%、また質がよくなるなら給食費が上がってもよいと考えている方が270人3割近くいましたが、給食費の補助、無償化について尋ねた質問では、505人53%の方が給食費の補
--	---

	助を続けてほしい、425人45%の方が給食費を無償化してほしいと回答し、合わせて98%の方が給食費の補助、無償化を望んでいることが分かりました。 アンケート調査のまとめになりますが、多くの保護者が現在の学校給食に満足してくれている一方で、全国で取り組みが加速している学校給食における有機栽培米や有機野菜の使用、また、子育て世帯への支援として、給食費への補助、無償化を求める声が大きくなってくることが想定されます。 5. おわりに 阿波市では、家庭を中心に学校・地域・行政が協働して、児童生徒そして市民の健康づくりを目指し、食育の推進に取り組んでいます。給食センターも、児童生徒そして保護者が生涯を通じて、健全な食生活を送れるよう、関係機関と連携して、今後も食育の推進に取り組んでいきたいと思っています。 ご清聴ありがとうございました。
町田市長	事務局から「阿波市における特色ある食育の取組について」資料に基づき説明がありました。この件につきまして、ご質問等をいただきたいと思っています。
重清職務代理	よろしいでしょうか。 教育委員の重清です。質問をさせていただきます。 学校給食センターは、安全面で毎年給食が作られる調理場の機械の点検を念入りに行っており、厳密に修繕されています。今後は、学校給食センターも11年目に入ったということで、建物自体の老朽化による劣化も改修していただきたいと思っています。 また、児童生徒、職員の使用している食器やお盆、各小学校中学校に給食を届けてくださっている配送車などもしっかり点検し、新しく交換すべき時期をお考えいただきたいと思いますが、いかがでしょうか。
井内学校給食センター所長	ただいまのご質問に回答いたします。 まず、建物ですが、令和5年3月改定の阿波市公共施設個別管理計画において、学校給食センターは、施設の用途や規模を考えても、近隣に代替施設となるものがなく、学校給食においては必要不可欠な施設であることから、長寿命化を図って行くことが決まっております。計画では、令和15年から令和19年の間で大規模改造を行う予定としておりま

	す。 次に、給食センターの機械類、配送車についてでございますが、長期休暇中に点検やメンテナンスを行っておりますが、施設の稼働開始から10年が経過した現在、突発的なトラブルが発生することもあります。今後は、財政課と協議を行いながら、計画的に更新を行って参りたいと考えております。 また、食器につきましても、購入から10年が過ぎ、汚れが目立つものもあり、更新についても検討する必要があると思います。こちらについても計画的に更新を行って参ります。以上でございます。
町田市長	ほかにご質問ございませんか。
森本委員	教育委員の森本です。よろしくお願いします。 地産地消と言われ始めて、長くなると思うんですけども、確かにメリットがいっぱいあって、CO₂の削減であったり、食品ロスを減らすとか、あとは地域の活性化、そういうのがあるんですけど、ただ一方で、2500食を、毎日大量に、地元産物をちゃんと確保する。というのは非常に大変な作業と思うんですけども、そこら辺はどのような体制を作って、今後もどのような方針でやっていくのかというのを、ちょっとお伺いしたいなっていうふうに思います。
井内学校給食センター所長	地産地消の体制について回答させていただきます。 給食センターでは、阿波市産の食材を優先的に使用するため、農業振興課、学校教育課、学校給食センター、JAで構成する阿波市学校給食農産物供給協議会を毎月開催し、青果物の使用予定や、作付・生育状況等の協議を行い、JAから年間を通して、安心・安全な農産物の安定購入を行っております。 会議では、翌月、学校給食で使用する青果物がJAから供給が可能であるかどうかの確認。また、翌々月、使用予定の青果物の作付け状況や生育状況などを確認し、献立作成を行うことで地産地消の推進を図っております。以上でございます。
森本委員	ありがとうございます。今後の生育とかそういったところまで配慮されてるっていうので、非常に大変な作業ですけども、引き続きお願いします。特にこの資料見えますけど、67.7%の地消率っていうところは、全国平均と比べても、ちょっと古いデータですけど、高くなって

	いますので、これも、大変でしょうけれども、引き続き頑張っていただきたいなと思います。
町田市長	ほかにご質問ございませんか。
細川委員	教育委員の細川です。よろしくお願いします。 アレルギーの子どもたちへの対応とか、そのあたりをどうなってるか教えていただけますか。
井内学校給食センター所長	アレルギー対応について回答させていただきます。 学校給食センターでは文部科学省の「学校給食における食物アレルギー対応指針」及び公益財団法人日本学校保健会の「学校のアレルギー疾患に対する取り組みガイドライン」に基づき、「阿波市学校給食における食物アレルギー対応マニュアル」を作成し、アレルギー対応を行っております。 食品表示法において、食物アレルギーの原因食物として表示が義務付けられている特定原材料の８品目、エビ・カニ・くるみ・小麦・そば・卵・乳・落花生のアレルギーについては「除去食・代替え食」の対応を行っております。 また、特定原材料に準じる２０品目のみのアレルギーにつきましては、詳細な献立表を作成し、保護者の方にお渡しすることで対応を行っております。 なお、新入学時等新たにアレルギー対応を行う場合は、保護者、学校、給食センターの３者で面談を行い、今後、どのようなアレルギー対応を行うのか協議し、決定をしております。以上でございます。
細川委員	ありがとうございました。
町田市長	ほかに、質疑等ございませんか。ないようですので、お一人ずつ、ご意見等をいただきたいと思います。 重清職務代理さんからお願いいたします。
重清職務代理	よろしくお願いいたします。感想ですが、阿波市における特色ある食育の取組についてお話を聞き、学校給食は児童生徒の心身の健全な発達のため、栄養バランスのよい調和のとれたおいしい食事を提供するとともに、準備、会食、後片付けをとおして、協力し合うこと、食事マナー

	を身につけること、食べることの大切さや食べ物への感謝など、食に関する生きた教材として重要な役割を担っており、阿波市では、安全・安心で新鮮な阿波市産農産物の積極的な利用、地産地消を推進するために、阿波市農業振興課、学校教育課、学校給食センター、J Aなどで構成する阿波市学校給食農産物供給協議会を毎月開催し、翌月、学校給食で使用する青果物使用予定表の協議、さらに、翌々月使用予定青果物の作付け状況、生育状況など、綿密に確認し、献立作成が行われていることを知りました。 そして、生産者、J A、学校給食センター、行政、それぞれの役割と取組を知ることで、いかに阿波市が新鮮で安全・安心な阿波市産農産物を大量に、しかも安定的に、その他の食品に対しても、可能な限り阿波市産を優先し、調達できる体制をとられていることがわかりました。 学校での食育活動についても、複数の栄養教諭が給食献立年間計画を立て、その献立の中に、ふるさとの味を受け継ごうということで、徳島県の郷土料理、日本全国の郷土料理も含まれ、各学校の給食の時間の放送で毎日メニューで使われている「A w a 産 O u r 消」の農産物を紹介したり、夏には、親子でチャレンジあわ味キッチンや親子給食センター探検隊などが実施され、親子で体験することで、阿波市の食育に対する大きな理解に繋がると思います。大変人気ということで、全員が体験することができないのが残念ですが、こうした機会を得ることができなくても、先ほど説明にあった学校給食センターの様々な取組は、ホームページ、広報あわ、栄養教諭が力を入れて作成されている給食だよりで、1 週間の給食や献立以外のことも紹介されています。 Q R コードからも、いろいろな情報を得ることができるので、保護者への周知徹底をしていただければと思います。 また、毎年、「A w a 産 O u r 消 M y メニューコンクール」の実施にも、多くの児童、生徒が応募し、食に対する関心が高まっています。 コンクールで入賞した献立が徳島新聞、読売新聞に大きく取り上げられ、すばらしい企画だと思います。徳島県学校食育推進パワーアップ作戦の実施でも、全ての学校において、対象学年である小学校 1 年生 2 年生 6 年生、中学校 1 年生 3 年生に栄養教諭が「食事の重要性」などについて、食育授業を行い、給食時もテーマを決めて指導されています。 学校給食に関するアンケートについても、多くの保護者が学校給食に満足されています。現在、どのご家庭も物価の高騰により、毎日の食費を削ったり、いろいろなものを節約し、やりくりをしている状況が続いている中、市が給食費を上げずに、補助していただいていることに感謝
--	--

	されている方も多く、可能であれば、無償化を求められている方も多くいらっしゃるようになりました。できましたら、その意に添える形でお考えいただければと思います。 今回、阿波市の食育の取組において、給食が児童、生徒、職員に届けられるまで、毎日の給食がどのように協議され、どのように調達されるのか、どれほどたくさんの方々が、安全・安心、栄養バランスのよい、おいしい給食を提供していただくために携わっておられるのか、少しでも多くの方々に知っていただきたいと思います。 そのために、関係団体の役割と取組をわかりやすく、図式化していただき、保護者や地域の方々に周知していただけたら、阿波市の食育に対する取組をより深く理解していただけるのではないかと思います。 子どもたちにとって、給食の時間がホッと一息つける楽しい時間であってほしいと思います。今後も安全・安心でおいしい給食をお願いいたします。 ありがとうございました。私の方からは以上でございます。
町田市長	ありがとうございました。 続いて、森本委員さん、よろしくお願いします。
森本委員	よろしくお願いします。小学校4年生と6年生の子どもがいます。よく「給食をおかわりした。」という話を家でしています。美味しいからであると思っています。このことがひとつの会話となって食卓が盛り上がることもありますので、感謝申し上げます。 先ほどの資料につきまして、感想等を述べさせていただきます。学童期におきましては、発育・発達の重要な時期ですけど、栄養の偏り、朝食の欠食、肥満に伴う生活習慣病の増加等、生涯にわたる健康への影響が懸念されております。子どもを持つ親としては、子どもの健やかな心と身体の発達は親の願いです。 先程会議中にもありましたけれども、本市の「特色のある食育の取組」の中で、「Myメニューコンクール」や、「あわ味キッチン」は親子や家族との関わりがより深まり、また「給食センター訪問」や「Awa産Our消活動」は仲間や地域との関わりが深まる活動だと思っています。いずれも食を通じて様々な角度から子どもたちの成長を促す、いい取組だと思っています。 ただ、関係各位におかれましては、日々大変な労力（地産地消を進めるにも大変な打合せ）があると思います。労力と気遣いがあるうかと思

町田市長	いますが、今後とも、大前提である食の安全を確保しながら、子どもや保護者を含めた皆様の意見に耳を傾け、より創意工夫を重ねながら、本市の子ども等の健やかな食を通した成長のサポートをぜひお願いしたいと思います。以上でございます。 ありがとうございました。 続いて、細川委員さん、よろしくお願いします。
細川委員	教育委員の細川です。よろしくお願いいたします。 給食センター所長さんからプレゼンで阿波市の食育推進体制や給食センターでの取組について説明がありよく分かりました。ありがとうございました。他の委員さんと重なる点もあるとは思いますが、自分なりの意見や感想を述べさせていただきます。 第2次阿波市食育推進計画の1番目の柱である「食を通して心身ともに健康に過ごそう」では、紹介されていた徳島県学校食育推進パワーアップ作戦のうえに、阿波市独自の取組や各学校の取組として、野菜ソムリエ、給食試食会、給食センター見学。また、JAや地域の方の協力によって、夏野菜の栽培、田植えや稲刈りなどでの米の生産、各地域の特色を生かした小麦やサツマイモ、ジャガイモ、ダイコンなどの植え付けや収穫。そして収穫した米や農産物を使つての調理なども行われ、食育が推進されていると思っています。 また2番目の「ふるさとの味を受け継ごう」という柱では、給食年間計画の中に徳島県や全国の郷土料理を取り入れるなどメニューが色々工夫されていると感じました。 地産地消を進めるために「A w a 産 O u r 消」と名前を付けて、阿波市でとれる農産物を使った料理が提供されていること。特に、給食に使うお米が100%阿波市産であること。それから、青果物は地産地消率が67.7%と高い数字を上げていて、令和5年度で目標を達成していることも知りました。 また、小・中学生を対象とした「A w a 産 O u r 消 M y メニューコンクール」今年で9年目くらいではなかと思うんですけども、新聞や広報あわで取り上げられてよく目にします。親子で阿波市の特産品を使つての料理を考えたり、入賞したメニューが給食やアエルワ食堂で食べられたりすることは阿波市の特産品を知るよい機会になると思っています。今後とも、続けていただけたらと思います。 3番目の「よりよい食を学ぶ力を身につけよう」では、夏休みなどに

	市の施設や給食センターを利用して、親子で料理を作ったり、給食センターの役割や調理の仕方を学習できたりして、とてもよい取組だと思います。 私も給食センターができた頃に見学させていただきました。2階からガラス越しに調理の様子を見せていただいたんですけども、材料の搬入口と給食となって搬出される場所が別であるという事、それから災害に備えておにぎりを作る機械がある事など説明していただきました。今までの給食センターより規模も大きくて、明るくて、衛生面でもさらに充実した施設だと感じたのを覚えています。10年経ったということで、更新をしたり、保守や点検をしていただきながら、おいしい給食を作っていただけたらと思っています。 今後とも各機関との連携を強化しながら、安全・安心でおいしい給食や様々な行事を通して食育推進計画を進めていただきたいと思います。どうぞよろしくお願いします。
町田市長	ありがとうございました。 続いて、曾川委員さん、よろしくお願いします。
曾川委員	教育委員曾川です。よろしくお願いいたします。 10年間積み上げてこられた「阿波市学校給食地産地消推進計画」に沿った特色ある取組をご説明いただいての私の感想を述べさせていただきます。先の述べられた委員さんのお話と重なるところもあるかと思いますが、よろしくお願いいたします。 まず、阿波市の食育推進体制の大きな柱として、地産地消を進めてきたとのことですが、「A w a 産 O u r 消」というスローガンが、とてもわかりやすく親しみやすいと感じました。 実際にその合い言葉を具体的に推進していくために、食育推進体制として掲げられた、3つの柱に沿ったそれぞれ取り組みの実践が素晴らしいと思いました。 具体的には、「A w a 産 O u r 消メニューコンクール」や「親子でチャレンジあわ味キッチン」、「親子給食センター探検隊」などが実施されていますが、どれも子どもたちが実体験を通じて「食」に対して興味関心が高まるようによく工夫されていると思いました。また、郷土料理を取り入れることで、給食を通じて、地域の食文化を知り親しめることに効果的な、よい取組だと思いました。 このような取組を、広報誌や新聞紙上で拝見した時には、阿波市民の

	一人として、うれしく頼もしく感じます。以上のような取組もそうですが、私が特に素晴らしいと思ったところは、「Awa産Our消」推進に当たって、「阿波市学校給食農産物供給協議会」の組織ですね。地元の農産物を扱うJAや阿波市農業振興課、学校教育課と給食センターが、しっかりと連携して働いている点です。 長期的に時間をかけて育てる野菜を、日々の給食の献立計画において使用を位置づける縦の時間的な見通しと、実際に野菜を供給していただける農業関係者の方々との横の繋がりがしっかりと組織されているところが素晴らしいと思いました。そして、令和5年度の地産地消率は67.7%となっていて、目標としている65%を上回って達成しているということ、大いに評価できるのではないかと思います。 農産物は天候などにより、必ずしも一定数量確保するのは難しいこともあるかと思います。また、物価の変動もある中、限られた給食費という予算の中で、農作物の生育や収穫の状況も常に把握しながらできるだけ新鮮な材料を使用して、計画的に日々2500食を提供されているということを知りまして、一口に地産地消と言いましても、多くのご苦労があるのではないかと想像いたします。 給食センターをはじめ、それぞれの関係機関のご協力や連携におけるご努力について、あらためて敬意を表します。こういったご努力に対して、学校給食に対するアンケート結果も、満足と感じている割合が92%です。満足している点においては、栄養バランス、献立内容、おいしさの点が上位を占めております。児童生徒の心身の健全な発達のために欠かせない、栄養バランスのよい調和のとれたおいしい食事が提供されていると言えるのではないかと思います。 もう一つ、アンケートの中で給食費に対する援助、補助の項目で、給食費に対する補助を続けてほしいというご意見が53%ありました。これは市からの給食費の補助は保護者にとって非常にありがたいことだと理解できます。さらに、無償化を望む声も45%にのぼっております。 このことを踏まえますと、子どもたちの健やかな成長に大きく寄与しています学校給食を、今後、無償化の方向で検討していただければ、財源確保等、簡単でないことも重々承知しておりますが、物価高騰の煽りを受けて奮闘されている子育て世代へ、「子育てするなら阿波市」としての大きな支援になるのではないかと思います。 これまで培ってこられた素晴らしい実践のノウハウを生かして、今後も、阿波市の新鮮な野菜を使った、さらに安心安全でおいしい給食を目指していただいて、子どもたちの健やかな成長を支えていただきますよ
--	--

町田市長	う、お願いいたします。 以上で私の感想とさせていただきます。 ありがとうございました。 なお、本日欠席しております森委員から、ご意見をいただいております。三宅次長、よろしくお願いします。
三宅次長	それでは代読いたします。 最初は地産地消についてでございます。給食センターでは、青果物の地産地消率は、令和3年が61.2%、令和4年が66.6%。そして令和5年が67.7%でございました。阿波市学校給食農産物供給協議会におきまして、野菜の生育状況等の情報を基に、毎月の献立作成を行ったり、翌々月に使う野菜の育ち具合も確認したりしているというのを知り、そこまで徹底した取組の成果が数値として現れているんだと思っております。 次に、阿波市の食育推進体制についてでございます。第2次阿波市食育推進計画に沿って、給食センターも、「Awa産Our消費メニューコンクール」やふるさとの味を受け継ぐための給食献立等、工夫をしているのがよくわかりました。「親子給食センター探検隊」は、センターが「いかに衛生に気をつけているか」など、給食に対する理解を得るためには、いい試みだと思いました。給食から離れますが、学校訪問をした際には、校長先生方から、地域の農業生産者の方が、栽培活動の協力をしてくださっていることをお聞きしました。また、農業振興課では、「キッズ野菜ソムリエ育成事業」も実施しております。阿波市の食育推進体制はうまく機能していると感じております。 最後に、アンケート調査結果についてです。アンケート調査で実に92%の方が、給食に満足しているのがわかります。とても素晴らしいことだと思いました。給食の質と給食費に関しては、70%の方が、「給食の質を維持して、給食費も維持してほしい。」と回答しています。 以前、学校で勤務をしていたときに、小学校が1食277円、中学校が301円に値上げを話し合う会に参加しました。その会で栄養教諭の方は、栄養バランスはもちろん、少しでも子どもたちが喜ぶ献立で、値段を抑えていく苦勞を話されていました。しかし、物価はどんどん上がっています。「給食の質を維持するためには、値上げはやむを得ない」との結論でした。現在、行政が補助をして、そのあとの、給食の値上げ分を負担しているのは、本当にありがたいことだと思います。また、ア

町田市長	ンケートでは５３％が「給食の補助を続けてほしい」４５％が「給食費を無償化にしてほしい」と回答しています。連日のように、物価上昇の報道がされています。阿波市としての限られた予算の中で、補助金拡大は厳しいものがあると理解していますが、できるだけ保護者の方の希望を考慮していただけたらと考えております。 以上でございます。
高田教育長	ありがとうございました。 最後に、高田教育長、お願いいたします。 委員さんからのたくさんのご意見・ご感想、本当にありがとうございました。私の方からも重なることがあると思いますが、意見を述べさせていただきます。 食育は、生きる上での基本であって、知育・徳育・体育の基礎といわれております。農業立志である本市では、「食育」を学校目標の中にしつかりと位置づけております。 そして、食育の生きた教材として期待されているのが「学校給食」であり、「食に関する様々な学び」とともに、成長期にある子どもたちの「健康の保持増進と体位の向上」に大きな役割を果たしております。 先ほどの井内所長のプレゼンにもありましたように、給食センターでは、阿波市独自の事業や取組をとおして、子どもたちが「食に関する知識」や「健康的な食生活を実践する力」をつけるように、学校と連携しながら頑張っています。 学校給食への満足度調査について、保護者へのアンケートは初めてでないかなと思います。かなりよい評価をいただいております。手前味噌とは思いますが、他郡市からこられた先生方からも高い評価をいただいております。 しかし一方で、残食の問題、高い水準での食物アレルギーの対策、また、異物混入がない安全な給食の提供など、様々な課題もあり、給食センターの職員は、給食がはじまる前後は気が気でならない、という思いを聞いたことがございます。 また、学校給食運営委員会では、近年の物価高騰を背景に、給食費のコストについても度々話題にあがっており、悩ましいところではあります。 しかし、学校給食は、子どもたちの命や健康を守り、将来にわたって、家庭の食生活にも影響を与えるものであり、今後とも質の高い給食の提

町田市長	供は担保しなければならないと思っています。 今後とも、保護者であったり、議員さんであったり、ご指導をいただきながら、安全で安心な学校給食の提供はもとより、食育推進の牽引役としての役割を十分に果たしていきたいと考えておりますので、どうぞご指導ご鞭撻の程よろしくお願いいたします。 ありがとうございました。 続きまして、議題２、「夏季休業日期間の見直しについて」、事務局から説明をお願いします。
三宅次長	それでは、夏季休業日期間の見直しについて説明をさせていただきます。 現在、本市の夏季休業日の期間は、阿波市立学校管理規則に７月２１日から８月２４日までと明記されており、７日間短縮しております。 まず、県内の市町村の夏季休業日の短縮期間の状況でございますが、７日間短縮している自治体は、阿波市をはじめ、鳴門市、那賀町、北島町の４市町。５日間短縮している自治体が、松茂町、藍住町、板野町、吉野川市の４市町。３日間短縮している自治体が、つるぎ町の１町。１日短縮している自治体が、小松島市の１市。短縮せず、８月３１日まで夏季休業日としている自治体が、徳島市をはじめ、１４市町村ございます。 続いて、夏季休業日期間の見直しを考える本市の主な状況でございますが、 １点目、年間授業時数が十分に確保されていること ２点目、８月下旬はまだ暑さが厳しく、屋外での活動が制限されること ３点目が、８月中旬から下旬にかけて、全国中学校体育大会などの大会が実施されていること ４点目が、教員の時間外在校時間が増えていること が、挙げられます。 １点目の授業時数についてでございますが、市内の小学校・中学校における令和５年度の平均の年間授業時数は、小学校が１１５７時間、中学校が１１１０時間ございました。 授業時数につきましては、文部科学省から通知及び周知が出ており、「標準授業時数１０１５時間を大幅に上回って１０８６時間以上になっている学校は、見直すことを前提に点検し、教育委員会も指導助言をすること」また、「災害や流行性疾患による学級閉鎖などの不測に事態

町田市長	に備えることのみを過剰に意識して、標準授業時数を大幅に上回って教育課程を編成する必要はない」となっております。 2点目の暑さについてでございますが、本年度8月21日から8月31日までの11日間において、熱中症警戒アラートが発表された日数は7日間ございました。 今年は熱中症警戒アラートが、徳島県に47日に発表され、7月と8月に集中しております。各学校では、熱中症対策を十分に考慮して登下校を促したり、外遊びや屋外での体育を制限したりする状況にあります。 3点目の8月中旬から下旬にかけて実施される全国中学校体育大会でございますが、来年度は、この一覧表のとおり、九州の各県で実施される予定でございます。期間は競技によって異なりますが、8月25日まで実施される競技もございます。また、開催地によっては、25日の始業式に間に合わない場合も考えられます。 4点目の時間外在校時間でございますが、本年度8月における県内8市の中学校における時間外在校時間の状況は、阿波市が最も長く29.1時間となっております。このことにつきましては、文部科学省からも教育課程の編成・実施に当たっては、学校の働き方改革にも配慮した対応を検討することが重要であるとの周知が出ております。 このような本市における状況や保護者負担なども考慮しながら、来年度からの見直し案としまして、試行的に現在の夏季休業日より、2日間延ばして、8月26日までとする方向で考えております。 以上で、夏季休業日期間の見直しについての説明を終わります。 ご清聴ありがとうございました。 ただ今、事務局から「夏季休業日期間の見直しについて」資料に基づき説明がありました。この件につきまして、ご意見等をいただきたいと思います。 意見はございませんか。 ご意見もないようですので、私からも本日の議題について意見を申し上げます。 最初に「本市の学校給食」については、事務局から説明があったように、 ・地元で採れた安心・安全で新鮮な農産物を安定的に供給できる体制を構築できている。 ・阿波市学校食育推進委員会を通じて、関係機関が連携し、共通の認識
------	--

大倉次長	を深めている。 などのことから、保護者へのアンケート調査では、概ね満足度が高い結果となっており、学校給食における食育が順調に進んでいると考えられます。 一方で、「給食費の値上がり分の支援」の継続、「無償化」など、多くの保護者から経済的負担の軽減を求める声があることも認識しております。 昨年１２月の阿波市議会定例会では、「学校給食費の運用」についての質問に対し、「給食費の無償化は、重要施策である子育て・教育支援として、保護者の経済的負担軽減となり、様々な施策に、相乗効果をもたらします。そのことから、事業の見直しや検討を行い、新年度において、国に先がけて、一步踏み出した予算を提案したいと考えています。」と答弁させていただきました。 教育委員の皆様方をはじめ、本日ご参加の皆様方には、ご理解・ご協力の程、よろしくお願いいたします。 また、「夏季休業日期間の見直し」については、昨今の猛暑への対策、先生方の働き方改革への配慮など、検討していく必要がある時期ではないかと思います。今後、教育委員会の定例会にて、児童・生徒の学習や活動への影響等を十分検討し、協議決定するようにしてください。 続きまして、議題３「その他」に移りたいと思います。何かありましたら、よろしくお願いいたします。 ご意見もないようですので、これで議事を、終了させていただきます。 長時間にわたり、委員のみなさまには、貴重なご意見をいただきまして誠にありがとうございました。それでは、この後の進行は事務局にお願いしたいと思います。 皆様、たいへん、お疲れさまでした。 本日の会議につきましては、阿波市総合教育会議運営要綱第６条に、「会議の終了後、その議事録を作成し、これを公表するものとする。」とされております。 委員のみなさまには議事録ができ次第、ご確認をしていただいたのち、阿波市ホームページへ掲載し、公表する予定といたしております。そうぞよろしくお願いいたします。 それでは、これもちまして、「令和６年度 阿波市総合教育会議」を終了いたします。ありがとうございました。
------	--